

<第4回>句会 1月27日(金)

◎子規の里明治の雪もこんな雪	貞風
◎一匹と一人と祝ふ雑煮かな	俊知
◎静の舞このあたりかと初詣	俊知
◎破魔矢手に鬘肩見てゐる栈敷かな	俊知
◇初鴉広き歩道をまた戻り	如雨
◇箏の音ややはらに残る去年の酔ひ	如雨
◇初明りもの憂き年齢になりけり	如雨
◇戌年に犬も着飾る初日かな	弁慶
◇お正月乗る子ねだる子肩車	貞風
◇初便り天竺僧の願ひごと	隆一
◇書初や天神様の軸の前	隆一
◇古稀といふ塚に至れり松飾	蓮圀地
◇初雪に鉢植の枇杷傾きぬ	武司
どんど焼関西弁の孫も行く	修人
小春日の陽を背に受けてうたたねす	仲安
▽若水やまだ穂の暗き庭稲荷	谿聲
▽振りかぶり土打ち毀ち鍬始	谿聲

<第5回>句会 3月23日(木) 雪解・春の風邪・雉・雛・桃の花

◎炭鉱の消えし空知や雪解川	修人
◎ふくろうの餌場ひろげし雪解かな	俊知
◎三日後は桃花と笑むや紺がすり	如雨
◎雪解やごうごうとして岸を食む	蓮圀地
◎老いに耐え片目の雉の立ち居たり	蓮圀地
◇読みさしの厚き本憂し春の風邪	如雨
◇スカートの短き街や雪解けぬ	如雨
◇南無飯縄大権現や春の風邪	修人
◇雛まつり今年も嫁ぐこともなく	貞風
◇雉の鳴くたきぎ拾いのなほ淋し	貞風
◇雪解水有磯海 ^{ありそのうみ} の幸運ぶ	隆一
◇いさかひて睦みて姉妹雛祭	蓮圀地
春分に鐘打つ子等の声はずむ	武司
義貞が剣投げし崎春の波	弁慶
▽山裾の無住寺の句碑桃の花	谿聲
▽あなとりて朝までテレビ春の風邪	谿聲

以上

東北大鬼城句会報 鬼城草庵[村上鬼城記念館]

<第6回>句会 5月26日(金) かいどう かいどう やまめ
 海棠・夏めく・山女・祭 当季雑詠を含む7句

村上谿聲選 ◎特選 ◇佳作

◎緩る緩ると初夏の旅する八高線	修 人
◎川べりに露天の出湯山女釣	修 人
◎篠の子の指したる天の広さかな	如 雨
◎夏めくや山椒味噌を添ふ朝餉	如 雨
◎夏めいて兜の軸に祖父思ふ	隆 一
◎湯女の碑の若葉にこもり名も知れず	貞 風
◎雲に乗り子連れ雷神過ぎ行きぬ	俊 知
◇それぞれの川の色持つ山女かな	弁 慶
◇串にさす掌に官能の山女かな	弁 慶
◇下山して川原の声の夏めきぬ	貞 風
◇うんちくを聞き惚れかじる山女かな	貞 風
◇ぶらんこの若葉に届け靴飛ばし	貞 風
◇母の日に母と居るとき温きかな	青 郎
◇山道の意外に近し雪解沼	青 郎
◇夏めくや駅が吐き出す羊群	蓮 圀地
◇海棠に還らぬ日々のありにけり	蓮 圀地
◇浮子一点山女の谷に入魂す	蓮 圀地
◇胸元に水晶一珠夏めける	蓮 圀地
◇鼻化粧稚子は祭に育つなり	蓮 圀地
◇浅草に飲みて日跨ぐ啄木忌	如 雨
◇降り立てばすでに祭の中にをり	如 雨
◇連翹の枝ためらはず越境す	如 雨
◇手術後の祝の膳に初鯉	仲 安
◇山深しランプの下で山女焼く	仲 安
◇亡き妻と孫連れて来し夏祭	武 司
◇花突く目白の番(つがひ)隠れをり	武 司
◇苺摘む幼子吾を振り返る	修 人
◇旨さうな屋台に並ぶ祭かな	修 人
◇登り着く村社拝殿昼蛙	隆 一
◇山門の奥に海棠花明かり	隆 一
◇八重桜散りたる後も花むしろ	竹 風
◇竹の音や箕輪の里につつじ咲き	竹 風

村上谿聲作

無愛想な苗売りにして頼みあり
 少年の山女掬ひし清流よ
 海棠や夢二の女想はせて
 木鐸の名こそ惜しみぬ桐の花

東北大鬼城句会報

学士会館

＜第7回＞句会 7月28日（金）

夏の波・清水・閑古鳥・滝・螢 当季雑詠を含む5句

村上谿聲選 ◎特選 ◇佳作

◎夏草を除けて確かむ歌碑の陰 如 雨
◎郭公の声やみ貨物列車来る 如 雨
◎流木や千里連なる夏の波 如 雨

一本の流木から千里連なる海の先を連想するとは、まさに椰子の実の藤村の詩情に通じている。

◎砂山を築けどさらふ夏の波 武 司

昔、童謡を唄った記憶と、海での実体験とが縋い交ぜになっていて、共感を覚える。

◎藪中の小滝の虫にヤマメ飛ぶ 興 武 司

山女や岩魚は餌である昆虫類を空中捕獲する業を持つ。下五は「飛ぶ山女」としても良い。

◎紺碧のマルタの海や夏の波 興 三

名句が出来てイタリア旅行の思い出が蘇り、費用も若干回収されたと言う気分。

◇郭公の木霊となりぬ奥の院 修 人

◇羽衣の滝美はしく荒ぶれり 修人 ※中七は「麗しく」か？

◇老鶯や旧友集ふ鬼城庵 修 人

◇ゆらゆらとわが顔映る清水かな 修 人

◇供ふれば遺影微笑む麦の秋 小松 洋 子

◇夏の波浜昼顔に翳りなし 洋 子

◇螢火や愛蔵の書に憶への字 洋 子

◇山裾の小さき画廊夏椿 洋 子

◇最上川芭蕉拝みし糸の滝 弁 慶

◇山清水旅路を重ねここにあり 弁 慶

◇蒼天に郭公の声澄みわたる 弁 慶

◇滝に立つ己小さきナイアガラ 俊 蓮 圀 池

◇朝市に匂を拾ひつ半夏生 蓮 圀 池

◇清水汲んで山気を点てる野点かな 蓮 圀 池

◇放物線双曲線の螢かな 蓮 圀 池

◇閑古鳥下界は藁を焼く煙 貞 風

◇何食はぬ蟬の合唱原爆忌 貞 風

◇結果待つ待合室の団扇急く 仲 安

◇入魂の墨清清し白緋 隆 一

◇浮き草の憂きこともなし夏の波 俊 知

＜互選特選句より＞

▽群青の海を溶かして夏の海 俊 知

武・仲

村上谿聲 作

葉変は神の御業か半夏生

如・隆

合宿の朝のしじまを閑古鳥

瀧涼し昔悲恋の物語

湖の闇より木々へ舞ふ螢

滾々と清水湧かせて珈琲館

貞